



社会言語科学会ニュースレター

The Japanese Association of Sociolinguistic Sciences

第 8 号

2001年2月7日

発行：社会言語科学会事務局

〒214-8580 川崎市多摩区東三田 2-1-1 専修大学文学部永瀬研究室気付

URL <http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/>

《巻頭言》

第7回研究大会へ向けて

研究大会委員長（社会言語科学会理事）

片桐 恭弘

第7回研究大会のプログラムをお届けします。会員のみなさまからは優れた研究発表申込みをたくさんいただき大変感謝いたします。

質・量ともに予想を上回る投稿をいただいたために、研究大会委員会では苦心の査読議論の末、研究発表の並列セッションを三本設けることにいたしました。また、大会企画としては、南山大学の斎藤衛先生による招待講演、敬語を巡るシンポジウム、さらに会員企画のワークショップがふたつとたいへん盛りだくさんな内容です。両日とも午前中に研究発表セッションを、午後に企画の催しを配置しました。

研究大会は、なによりも会員のみなさまの参加によって作り上げられる催しです。さまざまな形で大会に参加いただくために、前回の第6回大会から、会員自主企画のワークショップを始めました。この研究大会ワークショップの趣旨は一 研究発表としてまとめた内容でなくとも、今考えていること、悩んでいることなどを持ちより、興味を共有する人々の中で議論を

する中から新しい方向を探る。そのような目的で、テーマと発表者を決めて集まる 一ということです。第6回大会ではふたつ開催し、どちらも盛況でした。両方出たかったといううれしい不満すら聞きました。第7回大会でもふたつのワークショップを予定しています。第8回大会でもたくさんの企画応募をお待ちしています。

第8回大会からは、従来の口頭発表に加えて、ポスターセッションを設けます。ポスターをネタに大勢の人々と直接ワイワイと議論を交わすという発表形態です。活発な意見交換を通じて多様なアドバイスやヒントを得る大変良い機会を提供できると期待しています。

大会はみなさまのものです。「もっとこんな企画をやれ」「大会運営はこうして欲しい」といった大会企画・運営に関する忌憚のないご意見をお寄せ下さい。

大会委員長: katagiri@mic.atr.co.jp

大会事務局: jasstaik@so-net.ne.jp

早春の3月3日と4日、東京渋谷の國學院大學で、大勢のみなさまとお会いできることを楽しみにしています。（かたぎり やすひろ）

第7回大会 プログラム…p.2～4 案内(会場・交通・手話通訳)…p.4 研究大会ワークショップのお知らせ…p.5

徳川宗賢賞設立のお知らせ・徳川宗賢賞選考委員会からの寄付のお願い…p.5

第8回大会のお知らせ・研究発表の募集・研究大会ワークショップ企画募集のお知らせ…p.6

『社会言語科学』特集号テーマの募集・書評候補の募集…p.7

講習会「統計処理の基本—SPSSを使って」のご案内と参加者募集…p.7 事務局から：年会費納入のお願い…p.7

第7回社会言語科学会大会プログラム

期日 2001年3月3日(土) ~ 4日(日)

場所 國學院大學 本館 (渋谷キャンパス)

所在 〒150-8440 東京都渋谷区東 4-10-28

開催校・連絡先電話 03-5466-0230 (言語学研究室)

社会言語科学会の第7回大会が開かれます。大会委員長の巻頭言にもあるように、盛りだくさんな内容の、充実したプログラムを準備しています。たくさんの皆様のご参加をお待ちします。会員以外の方も参加できますので、お声をかけ合って、ご参加ください。

第1日 3月3日(土)

9:00 受付開始

10:00 開会

—— < 午前の部 > A会場(301)/B会場(302)/C会場(305)で同時進行 ——

〔研究発表1：A会場(301)〕

司会：伝 康晴 (千葉大学)

10:00-10:25 人はどのようにして会話を終えるのか—日英比較研究

近藤直子 (日本女子大学大学院)

10:25-10:50 日英語による日系二世の語りで日本人聞き手の見せた

西村美和 (群馬県立女子大学)

同時発話：協調か割り込みか

10:50-11:00 休憩

11:00-11:25 日本語童話における語り手の働きについて

菅沼文子 (日本女子大学)

—英訳版との対照研究—

11:25-11:50 韓国手話と日本手話—比較言語学的考察—

宮本一郎 ((社) 全日本ろうあ連盟
日本手話研究所)

〔研究発表2：B会場(302)〕

司会：岡 隆 (東京大学)

10:00-10:25 日常的な会話における慣用的な隠喩の拡張について

杉本巧 (広島大学大学院)

10:25-10:50 リベアマーカ「てゆうか」の機能

ローレンス 静

(ミシガン州立大学大学院)

10:50-11:00 休憩

11:00-11:25 「ジャナイカ」と関連性理論

韓惠蘭 (東京外国語大学大学院)

11:25-11:50 嘘はどのようにして成り立ち、そして未遂に終わるか

西村史子 (ワイカト大学)

〔研究発表3：C会場(305)〕

司会：西阪 仰 (明治学院大学)

10:00-10:25 テレビコマーシャルの文末表現の年代差について

村田和代 (奈良女子大学大学院)

—positive politeness の観点からの考察

10:25-10:50 「です/ます」の敬語以外の機能

川崎享子 (The University of

—マップタスクにおけるスピーチレベルシフト

Melbourne, PhD candidate)

10:50-11:00 休憩

11:00-11:25 インタビュー会話における「言い換え」の分析

若松美記子 (一橋大学大学院)

11:25-11:50 あいづちの頻度の男女差

小暮正人 (The University of Arizona,
Interdisciplinary Ph.D. Program)

11:50-12:20 臨時総会〔会場：401〕

12:20-13:20 休憩 (理事・監事は理事会)

————— < 午後の部 > —————

13:20-14:50 講演〔会場：記念講堂（百周年記念館4階）〕

【演題】 「日本語の『非論理性』：文構造形成における日英語の相違」
講演者 斎藤 衛（南山大学）

14:50-15:00 休憩

15:00-17:50 ワークショップ ―― A会場（301）/B会場（302）で同時進行 ――

ワークショップ1〔A会場（301）〕 （p.5を併せてご覧ください）

【テーマ】 人間を対象にした調査や実験の問題点

企画責任者： 荻野綱男（東京都立大学）
話題提供者： 内田伸子（お茶の水女子大学）
田中ゆかり（日本大学）
田原広史（大阪樟蔭女子大学）
齋藤孝滋（フェリス学院大学）

ワークショップ2〔B会場（302）〕

【テーマ】 「不誠実」なコミュニケーション―アイロニーと嘘への心理学的アプローチ

企画責任者： 岡本真一郎（愛知学院大学）
話題提供者： 西谷健次（作新学院大）
村井潤一郎（東京大学）
岡本真一郎（愛知学院大学）
指定討論者： 辻 大介（関西大学）

18:00-20:00 懇親会〔会場：院友会館〕

————— 第2日 3月4日（日） —————

9:30 受付開始

10:25 開会

————— < 午前の部 > A会場（301）/B会場（302）/C会場（305）で同時進行 —————

【研究発表4：A会場（301）】

司会：ダニエル・ロング（東京都立大学）

10:25-10:50 大学生の待遇表現における日本語と韓国語の対照研究

金順任（東京外国語大学大学院）

10:50-11:15 日韓の授受表現における意識差

峯崎知子（東京学芸大学大学院）

―「テアゲル」「テヤル」を中心に―

11:15-11:30 休憩

11:30-11:55 直示的移動動詞の用法にみる談話機能

田辺和子（日本女子大学）

～日本語における「～てくる」とマオリ語の方向指示語の考察～

11:55-12:20 日独慣用句の具象性とその現象形態に関する一考察

吉羽里恵（獨協大学大学院）

―「骨・Knochen」の慣用句について―

【研究発表5：B会場（302）】

司会：小磯花絵（国立国語研究所）

10:25-10:50 母語話者間による日本語会話の

中井陽子（群馬大学）

話題転換部に用いられる言語的要素

10:50-11:15 会話に見られる主導権の移動と話題の移行

森本郁代・伝康晴

―発話交換構造におけるフォローアップ発話の機能を中心に―（大阪大学大学院／千葉大学）

11:15-11:30 休憩

11:30-11:55 音声対話における感動詞・応答詞の感情的意味機能

坊農真弓（神戸大学大学院）

―「ああ」を手がかりに

11:55-12:20 吃音現象の相互行為的マネジメント

渡辺義和（南山大学）

―談話・会話分析的アプローチ―

〔研究発表6：C会場(305)〕

- 10:25-10:50 英語学習における学習観・学習信念に関する基礎的研究
—英語を専門課程としない医療福祉系専門学校生を対象に—
- 10:50-11:15 マンガによる日本語教育—社会言語学の観点から—
- 11:15-11:30 休憩
- 11:30-11:55 経済のグローバル化と経済活動媒体としての言語の相関性
—日本経済と日本語における借用語を中心に—
- 11:55-12:20 首都圏移住者の方言アクセント間における
切り換え能力の推移—情報処理論的観点から—

司会：西原鈴子（東京女子大学）

中山晃（国際基督教大学大学院）

Kwon Kyung-Min（学習院大学大学院）

森口英則（名古屋外国語大学大学院）

余健（大阪大学大学院）

12:20-13:30 休憩

< 午後の部 >

13:30-16:30 シンポジウム〔会場：401〕

〔テーマ〕 敬語の世界、世界の敬語—敬意表現の普遍性と特殊性—

企画責任者： 川口義一（早稲田大学）

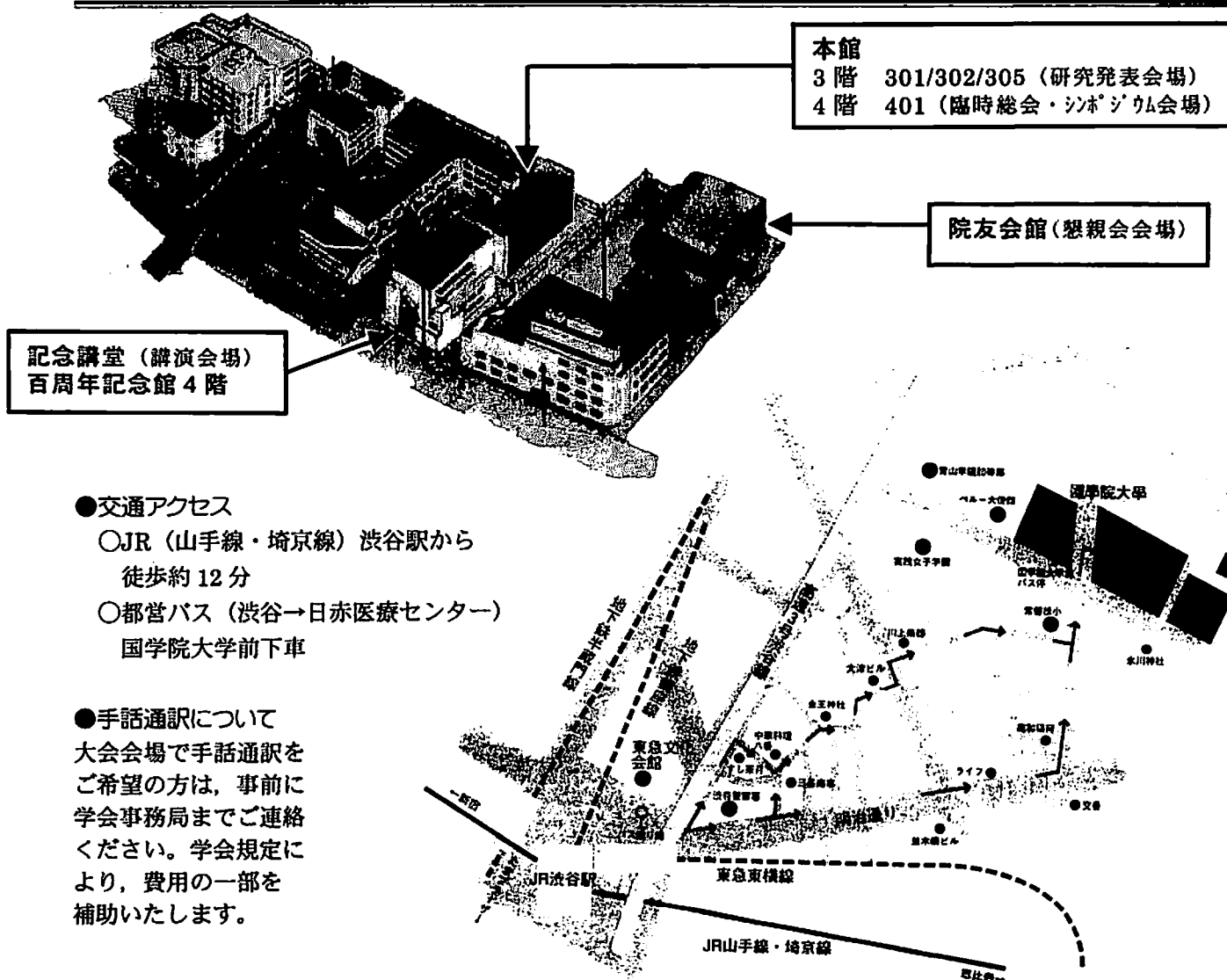
話題提供者： J.V.ネウストプニー（桜美林大学）

任 栄哲（韓国 中央大学校）

彭 国躍（神奈川大学）

P.ウエツェル（米国 ポートランド州立大学）

16:30 閉会



研究大会ワークショップのお知らせ

—調査や実験に関する質問を受け付けます—

荻野綱男

2001年3月の研究大会では、ワークショップ「人間を対象にした調査や実験の問題点」を開催します。

企画責任者<司会者>:

荻野綱男(東京都立大学)

発題者:

内田伸子(お茶の水女子大学)

言語獲得研究の方法論—語意学習の性質をめぐって—

田中ゆかり(日本大学)

人間を対象とした日本語研究における「迷うこと」

田原広史(大阪樟蔭女子大学)

計量と調査のバランスをどのようにとるか

齋藤孝滋(フェリス学院大学)

地域言語臨地調査における音韻音声・アクセントの調査・実験法と問題点

各種の調査や実験を進めるにあたって、どのような問題点に遭遇しているのか、実際に研究を進めている研究者を中心に、お互いに議論し、またフロアからの意見も聞きながら、みんなで考えてみたいと思います。特に、計量的な統計調査を念頭に置きます。

調査手法や分析方法などで困っている例、計量的でない調査をどうするかというような問題、意識と実際のずれなど、さまざまな問題点が出てくるでしょう。

このワークショップでは、事前に会員からの質問(調査や実験に関すること)を受け付けます。「よくある質問」のようなつもりで、お気軽にご質問ください。会員の皆さんの声をなるべく活かしたワークショップにしたいと思っています。

質問は、各種の制約に配慮して、電子メールだけで受け付けますので、電子メールが使えない方は、使っている知り合いの方に送信を頼むような対応をお願いします。送り先アドレスは、JASS-ws@kokubun.human.metro-u.ac.jpです。

お送りいただいた質問のすべてをワークショップで取り上げることはお約束できませんので、あらかじめご了承ください。

徳川宗賢賞設立のお知らせ

第6回研究大会(2000年9月9~10日 於中京大学)において、故徳川宗賢初代会長(1999年6月逝去)の業績と本学会設立に傾けた情熱と精神をたたえ、2000年度より「徳川宗賢賞」を設立することが承認されました。

この賞は、毎年本学会誌『社会言語科学』に掲載された論文の中から、ひととき優れた論文一本に授与されるものです。今後質の高い優れた論文がますます多く投稿されることを期待しています。

1.賞の種類と名称

「徳川宗賢賞」 論文に対して各年度一本
副賞 40万円

2.選考の基準

本学会の理念に沿った優れた論文に授与される

3.賞の対象

原則として『社会言語科学』掲載論文
(第一回の授賞のみ創刊号から第2巻第2号までの4冊の中から選考する。その後は各年度の掲載論文の中から一本)

4.選考機関

徳川宗賢賞選考委員会が、徳川宗賢賞の選考を行なう

5.表彰

選考は2000年度から実施し、第一回目の表彰は2001年の総会にて行なう

徳川宗賢賞選考委員会からの 寄付のお願い

徳川宗賢賞選考委員会では、徳川宗賢賞の原資として徳川宗賢賞基金を設置し、広く寄付を申し受けております。ご寄付は個人、団体の別を問いません。

徳川宗賢賞基金に関するご意見をお待ちしています。
お問い合わせ先:

三宅和子(徳川宗賢賞委員:庶務担当)
miyake@toyonet.toyo.ac.jp

なお、徳川宗賢賞選考委員会の詳細については学会ホームページをご覧ください。

第8回大会のお知らせ

ご予約に組み入れて、多数ご参加ください。

期日 2001年9月22日(土)、23日(日)
場所 慶応義塾大学三田キャンパス
所在 〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45
(<http://www.keio.ac.jp/access.html> 参照)
交通 JR(山手線) 田町駅から徒歩約8分
開催校・連絡先電話 03-3453-4511(代)

研究発表の募集

第8回大会の研究発表を以下の要領で募集します。

今回から口頭発表に加え、ポスター発表を設けました。ポスター発表は会員同士が直に議論や情報を交わすことのできる発表形態です。奮ってご応募をお願いします。

【発表資格】 申込の時点で社会言語科学会の会員であること(申込と同時に入会も可。連名発表の場合、筆頭発表者・口頭発表者は本学会員である必要があります)。

【発表内容】 本学会の趣旨に沿った分野の内容で未発表のもの。(社会言語学、社会心理学、社会学、心理学、コミュニケーション論、言語学、言語人類学、文化人類学、語用論、日本語教育、英語教育、情報科学、認知科学、人工知能、その他の分野で、ことばを社会や文化・認知との関係でとらえた研究)

【発表形態】 (1)口頭発表(質疑応答を含め25分程度の発表時間を予定)、(2)ポスター発表(ポスター数件を集めてポスターセッションを構成します。発表者と聴衆が直接議論することができます)。

【応募要領】 (1)発表題目、(2)氏名、(3)住所、(4)連絡先電話/Fax番号、(5)E-mailアドレス、(6)所属、(7)職名、(8)希望発表形態(口頭/ポスター)、(9)発表要旨1,200字程度を記載したE-mailを下記アドレスに送付してください。

なお、E-mailでの応募を原則としますが、郵送でも受け付けます。その場合、上記(1)~(9)の項目をなるべくA4用紙1枚に収めるようご記載ください。※要旨の言語は日本語を原則としますが、英語でも受け付けます。

【応募先】 jass-submission@mic.atr.co.jp
〒180-0001 東京都武蔵野市吉祥寺北町4-1-27-208
社会言語科学会研究大会委員会 阿部圭子
Fax: 0422-55-5759

【申込締切】 2001年6月15日(水)

【予稿集】 採否の結果は7月15日までに応募者に連絡します。

発表者には(口頭発表、ポスター発表とも)、発表に先だって予稿集用の原稿の執筆をお願いします。A4サイズで6ページ以内、締切期限は8月15日の予定です。

なお、応募の採否、発表順序などについては研究大会委員会にご一任願います。発表形態(口頭あるいはポスター)についても応募時の希望に沿えない場合もありますので予めご了承ください。

※第7回大会では、27件の発表応募があり、そのうち24件を採択させていただきました。

研究大会ワークショップ 企画募集のお知らせ

研究大会では、これまで研究発表の他に大会企画として招待講演、シンポジウムなどを開催してきました。研究大会における会員間の交流を促進し、大会を一層実りあるものとするために、次回の研究大会でも、会員の提案に基づくワークショップの開催を計画しています。特定のテーマを設定して集中的に討論を行い、研究課題の整理・発掘、新たな研究方向の提示、異分野間の認識の擦り合わせを目標とします。

上記趣旨により、ワークショップの企画を広く会員のみならずから募集いたします。企画提案者は以下の項目を添えて電子メールにて下記までお申し込みください。

【提案項目】

- (1) ワークショップ題目
- (2) 企画責任者の氏名、所属、連絡先
- (3) 他のワークショップ参加予定者の氏名、所属
- (4) ワークショップの企画概要(1,000字以内)

【送付先】 jass-workshop@mic.atr.co.jp

郵送、Faxの場合

〒619-0288 京都府相楽郡精華町光台 2-2-2

国際電気通信基礎技術研究所 片桐恭弘

Fax: 0774-95-1178

【申込締切】 2001年6月15日(水)

○ワークショップは大会期間中に研究発表とは独立に1企画あたり3時間程度での開催を予定しています。ワークショップ並列開催の可能性はありますが、研究発表とは重ならないよう設定する予定です。

○会場準備の都合上、申し込み多数の場合には、すべての開催希望に添えない場合もあります。ご了承ください。

特集号のテーマ募集

『社会言語科学』

書評候補の募集

『社会言語科学』では、特集号を発行しています。これまでに「日本の言語問題」(第2巻第1号)、「日本語と言語接触」(第3巻第1号)の特集が実現し、現在「電子社会の言語科学」(第4巻第1号の予定)の特集が進行中です。よい特集のテーマがありましたら、学会誌編集委員会委員長までご提案ください。

『社会言語科学』では、毎号2,3本の書評を掲載してきました。よい書評候補がありましたら、学会誌編集委員会委員長までご推薦ください。

学会誌編集委員会委員長

岡 隆 (oka@l.u-tokyo.ac.jp)

*****講習会『統計処理の基本-SPSSを使って』のご案内と参加者募集*****

下記の要領で講習会を開催します。
みなさんのご参加をお待ちします。

日時 1回目: 2001年3月24日(土)

2回目: 25日(日)

両日とも、午前10時～午後4時

《講習は1日1回。日によって内容が異なります。》

場所 SPSS本社 (東京都渋谷区広尾)

《JR(山手線・埼京線)・営団日比谷線

恵比寿駅より徒歩5分》

内容

1. アンケートの質問票の作成: 質問の種類や尺度の説明, よりよい質問文の作り方

2. 調査対象のサンプリング法の種類と実際の採用

3. 集計したアンケートのデータ化

4. SPSSを使った分析と検定の種類-どんなデータにどんな検定と分析が可能か-

講師 永瀬治郎(専修大学文学部)

田中ゆかり(日本大学文理学部)

対象者 24日(1回目) パソコン初心者

25日(2回目) SPSS初心者

定員 1回目, 2回目とも14名《先着順に受付》

※1回目の受講者は2回目には申し込みません

参加費用 会員: 12,000円 非会員: 15,000円

受付期間 2001年

2月19日(月)10:00～3月9日(金)15:00

(郵便の場合は3月9日までに必着)

申込み方法 以下の内容を記載したE-mail(郵便, Faxでも可)を下記まで送付してください。

(1)氏名, (2)住所(郵便番号も), (3)連絡先電話/Fax番号, (4)E-mailアドレス, (5)所属, (6)会員/非会員の別, (7)職名, (8)参加希望日(24日または25日)

※郵便, Faxの場合は, 「お申し込みの正確な日時」を必ず付記してください。なお, 郵便の場合は, 封筒に付記してください。

申込み・問合せ先 jassjigy@cf6.so-net.ne.jp

社会言語科学会事業委員会

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

国立国語研究所気付

Fax: 03-3906-3530 (所内共用につき, 「社会言語科学会講習会申し込み」と明記してください)

※参加の可否, 参加費用の納入方法等については, 両日の参加者名簿が確定した後に, 申し込まれた方に連絡します。

*****2000年度年会費をまだ納入していない方はできるだけ早く納入してください。*****

一般: 7,000円 学生: 5,000円 団体: 10,000円 *ODA対象国在住の会員の会費は当分の間半額とします。

○国内会員 郵便振替口座 加入者名: 社会言語科学会 番号: 00210-2-87060

○海外会員

①銀行振込 振込先: 東京三菱銀行(Tokyo-Mitsubishi Bank) 逗子出張所(Zushi Branch 321)

口座名: 社会言語科学会(Shakai Gengo Kagakkai) 口座番号: 普通 0388545

②クレジットカード(VISA, MASTER, AMEX)利用

事務局に, (1)カード名, (2)個人番号, (3)有効期限, (4)カード上の署名, をお知らせください。

ただし, E-mailでの連絡は悪用される可能性がありますので, 郵送かFaxを利用されることをお勧めします。

E-mailでのご連絡によって生じたトラブルについては学会は責任を負えませんので, ご注意ください。

学校法人江副学園 私達は若い研究者を応援します。

学校法人江副学園は 1975年に設立された新宿日本語学校が、1999年12月に日本語教育目的として新たに設立した学校法人です。現在、この学校法人江副学園は新宿日本語学校（略称S.N.G）とカルチャー・アンド・ランゲージ・センター日本語学校（略称・CLC日本語学校）を開設しています。

私達は、学校法人として若い研究者を応援することも目的の一つと考えています。

<http://www.sng.ac.jp>
E-mail: office@sng.ac.jp

理事長 江副隆秀



学校法人江副学園

新宿日本語学校

SHINJUKU JAPANESE
LANGUAGE INSTITUTE
169-0075 東京都新宿区高田馬場2-9-7
TEL.03(5273)0044 FAX.03(5273)0018



学校法人江副学園

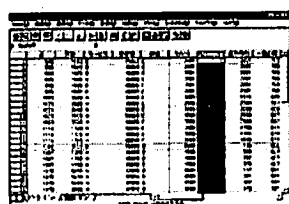
CLC日本語学校

CULTURE AND
LANGUAGE CENTER

169-0051 東京都新宿区西早稲田3-26-13
TEL.03(5273)0753 FAX.03(5292)3180

SPSS 10.0J for Windows (日本語対応版)

大好評出荷中!!!



優れたデータ管理、分析レポートとモデリング。

貴方の研究に大いにご活用ください!

最新バージョン SPSS10.0J は、分析ソフトウェアの新しい標準を打ち立てました。
膨大な量のデータに素早くアクセスし、迅速な分析を行います。

SPSS10.0 ホームページ >> <http://www.spss.co.jp/product/ALL/base/index.htm>

New! SPSS Maps

地図データを活用したマッピングツール、遂に登場!

強力なマッピングにより、優れた意思決定のための戦略的方針を地図情報としてチャートにします。

SPSS Maps は SPSS データを地図情報としてマッピングする、SPSS10.0 の新オプションです。SPSS Maps があれば地理的変数を使って結果を地図上にプロットできるので、どこで何が起こっているかを的確に把握することが可能となります。SPSS Maps は意思決定に役立つ新たな情報を視覚的に提供します。

Key Features

- ・SPSS とのシームレスな統合: SPSS メニューからダイレクトに実行可能
- ・7 つのテーママップオプション: 点密度・棒・円・値の範囲、個別値、段階マーカー、これらを任意に組み合わせた多重テーママップが作成可能
- ・様々なサンプルマップとジオセット: MapInfo フォーマットとして各国のマップが用意。さらに日本語版には全国市区町村行政地図も付属
- ・必要に応じて補足マップをインポート可能
- ・サンプルデータセットつき: Claris Inc. の Workplace Population、PRIZM、CLOUT データがバンドリング。また 40 개국以上の MapInfo デモグラフィックデータつき。
- ・SPSS シンタックスプログラミング対応
- ・マップのエクスポート: 一般的なグラフィックファイル形式 (WMF、CGM、TIF、PCT、EPS、PNG、BMP、JPEG) にエクスポート可能

*SPSS Maps の稼働には SPSS Base 10.0 が必須となります。

*SPSS Maps サーバ版もご用意しております。SPSS Maps のご購入、その他お問い合わせにつきましては弊社ビジネス・インテリジェンス事業部までお気軽にお問い合わせ下さい

SPSS Maps 10.0J ホームページ >> <http://www.spss.co.jp/product/ALL/Map/index.htm>

全国市区町村行政界
地図付き

東京都の人口



稼働環境

- Windows 95, 98, 2000 又は NT4.0 以上
- 56Kbps 以上のモデム または それ以上の LAN 接続
- 32MB の RAM
- 6MB のハードディスク容量
- VGA 対応: SPSS Base 10.0 必須



エス・ピー・エス・エス株式会社

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエア7-10F

Tel: 03-5466-5511(代)

Fax: 03-5466-5621

e-mail: jpsales@spss.com

URL: <http://www.spss.co.jp>